

4. おわりに

向上訓練コースは地域企業の要請にもとづいて設定されることが多いゆえに、その要請の変化をとらえなおし、訓練コースを見直す必要がある。しかし、この向上訓練コースの見直しについて、どのような視点からどのような方法で実施すればよいのか、明確になっていない。

そこで、本報ではわれわれが既に設定した“半自動溶接技能クリニック”を事例としてこの問題を検討した。つまり、訓練目標が地域企業の期待とズレていないかを再確認すること、およびその目標に適した授業方法になっているかを確認、改善点をみつけることである。

これは、カリキュラム評価、プログラム・エバリエーションの研究分野の課題であるが本研究ではきわめて泥臭い研究方法をもちいて、そこから得られる事実をもとにこの課題を追求した。

この調査を進める過程で、カリキュラム評価のための情報を集める上での、いくつかの問題にぶつかった。その問題はあるものの、“半自動溶接技能クリニック”についての訓練目標が再確認され、またこの訓練での授業の改善方向も明らかになった。

まず、在職技能者の保有している技能をある基準とのかかわりで診断し、必要あらば技能の補正をおこない、さらに実務の理論的な裏づけをもする、この訓練コースの目標に対して受講者から明確な喜びの声を聞くことができた。その喜びの意味は、職場にもどって自分の職務遂行における自信が生まれ、自律的・主体的に仕事に取り組めるようになるということが確認された。これはこの向上訓練コースの目標が地域企業の期待と今のところ、一致している証左である。

また、“半自動溶接技能クリニック”の授業方式については、大綱においては現行方式でも受講者に喜んでもらえる。しかし、次のような点の改善が必要とされる。

① この訓練コースの受講者は自己の技能を“とらえなおす”わけであるが、その際、受講者自身で技能の補正点など気づいてもらえるように指導法をさらに工夫すること。

② 実務の理論的な裏づけを得るための実験においては、受講者自ら、事実を確認し、自ら学習場面を制御できるように授業方式を改善すること。

このような点が改善されれば、“とらえなおし”の向上訓練として受講者および企業主の喜びはさらに拡大されると思われる。

以上のごとく、公共向上訓練の独自性を追求しつつ、新しい向上訓練コースを開発すると同時に、設定した訓練コースの見直しをすることが大切になると思われる。

今後の課題として、向上訓練におけるカリキュラム評価の方法を綿密に検討したい。本調査では向上訓練の受講者をフォロー・アップした。その際、訓練を受けてから、どの時点で訓練受講の感想を聞くかによって“向上訓練を受けてよかった”とする表現内容の深さが異ってくるのがわかった。この点も含めて向上訓練コースを見なおす方法を再検討したいと思っている。

本研究を進めるにあたり、溶接技能クリニック研究委員会の委員として、妹島五彦先生（日本電機工業会）、杉山茂嘉先生（石川島播磨重工業株式会社）、田中節雄先生（筑波大学）、小原哲郎研究員（訓研センター）、さらには埼玉技能開発センターの諸先生に御指導いただきました。心よりお礼申し上げます。